

茅十五回
明月之舎

平成二十五年五月五日(日) 一時半始
於。国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷四一八八一
☎〇三(三四二三)一三三一

能 景 清 加藤 眞悟

仕舞 屋 島 梅若万 佐晴

仕舞 藤 戸 梅若万 三郎

狂言 入間川 山本 則孝

能 小鍛冶 加藤慎一郎

第十五回 加藤真悟明之會

平成二十五年五月五日(日) 一時半始
於・国立能楽堂

解説

表きよし
(国士館大学
21世紀アジア学部教授)

(一時五十分頃)

景清

シテ 景清 加藤 真悟
ツレ 人丸 青木 健一
トモ 従者 中村 政裕
ワキ 里人 安田 弘之
笛 松田 信吾
小鼓 幸 光雄
大鼓 安福 光雄

休憩 二十分

藤屋 戸島

梅若万佐晴
梅若万三郎
梅若 久紀
伊藤 嘉章
青木 一郎
遠田 修

やしま：『平家物語』を題材とした能で、源義経が四国の屋島での合戦で思はず弓を取り落とし、敵船の近くまで流れていくのを、未代の名誉のために、いのちをかけて取り戻そうとしたことを語り、修羅道での戦いの様を紋服袴で舞います。
ふじと：こちらも『平家物語』を題材とした能で、佐々木盛綱によつて藤戸の先陣で殺された亡霊が、殺された時の様子を「氷のような刀によつて胸を刺しとおされ、海に押し入れられた」と具体的に再現してみせる。恨みをもったが、弔いによつて成仏し消え去る。

入間川

シテ 大名 山本 則孝
アド 太郎冠者 遠藤 博義
アド 入間某 山本泰太郎

(四時三十分頃)

小鍛冶

前シテ 童 子 加藤 慎一郎
後シテ 稲荷明神 村瀬 提
ワキ 三條宗近 村瀬 慧
ワキツレ 勅 使 村瀬 慧
間 宗近下人 山本 凛太郎
笛 藤田 貴寛
小鼓 幸 泰平
大鼓 大倉慶乃助
太鼓 徳田 宗久

主催 加藤真悟明之會

◆事前講座のご案内

本公演の見所などについて解説いたします。
日時 4月27日(土)午後2時〜4時
会場 本行寺(東京都荒川区西日暮里3-1-13)
講師 加藤真悟
参加費 1,000円(チケット購入者・友の会会員は半額)

景清

かげきよ 平家の勇将悪七兵衛景清(シテ)は、一門没落後も生き延びて、敵の総大将頼朝の命を狙っていたが果たせず、かえって源氏方に捕らえられてしまう。源氏の栄える世の中を見ることを拒み両目をえぐり取り盲目になって、日向の国(宮崎県)に流され、乞食同然の身となる。
景清の娘・人丸(ツレ)は父を慕うあまり、従者(トモ)に伴なわれ鎌倉からはるばる訪れ、父とも知らず蘆屋に住む盲目の乞食に父景清の行方を尋ねる。今は里人の情けにすがっている哀れな境況にある景清は、わが子の行く末を思い、親子の名乗りをせざるに別れるが、里人から先ほどの乞食が景清と教えられ、やがて親子は感動の再会をし、屋島の合戦の武勇伝を語り、我が亡き跡の回向を娘に頼み故郷に帰す。

入間川

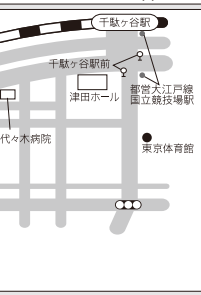
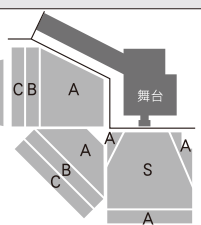
いるまがわ 長い間京都にいた大名(シテ)が、太郎冠者(アド)を伴って本国に帰ることになる。武蔵国入間川(現在の埼玉県)に行き当たり、深みにはまってしまう。「入間の何かさ言葉」という意味が逆になる方言だと思っただからで、怒った大名は成敗するというのが、何某は成敗しない、と入間言葉で返すので、案じくなり、大名は太刀や着物を与えてしまう。最後は……。
こ 一条帝が不思議な夢を見て橋遣成(ワキツレ)を勅使として名工三條小鍛冶宗近(ワキ)に御剣を打つことを命じる。
小鍛冶 宗近は承つたものの、優れた相槌の者がいないので途方にくれ、氏神である稲荷明神へ祈願する。すると童子(前シテ)が現れ、名剣の故事を語り草薙の剣の物語を詳しく語って神通力によって力を貸し与えるといつて消えてゆく。(中入)
宗近は、注連縄を張つた壇上で祝詞を唱えて待つていると、稲荷明神が狐(後シテ)として現れ相槌を打つて表に小鍛冶宗近、裏に小狐と銘を打つて勅使に捧げ、稲荷山に帰つて行く。



「小鍛冶」加藤真悟



加藤真悟(かとうしんご) 昭和33年生。故二世梅若万三郎及び三世梅若万三郎師に師事。観世流準職分。日本大学文学部哲学科卒。在学中に現万三郎師に師事し、梅若万三郎家に内弟子入門。昭和62年より梅若研究会例会にてシテを勤める。各地にて能の普及に尽力。海外公演に多数参加。平成11年より毎年「明之會」(自主公演)を開催する。一方「眞語会」を主宰して愛好者に謡仕舞の指導をしている。
加藤慎一郎(かとうしんいちろう) 平成6年生まれ。初舞台は四歳。仕舞「老松」(第一回明之會。以来「船弁慶」「隅田川」「望月」など数々の子方を勤める。「昨年の明之會」(経正)で初シテ。昨年の明之會「花月」で初面。



【入場料】

指定席S 九,〇〇〇円
指定席A 七,〇〇〇円
指定席B 五,〇〇〇円
指定席C 三,〇〇〇円
学生割引 各一,〇〇〇円引き
(25歳まで)

【お問い合わせ・お申し込み】

●加藤真悟 ☎045(481)8704
ホームページ <http://shingo.from.tv>
携帯Eメール shingo55kato@ezweb.ne.jp

●梅若研究会

☎03(3466)3041
入会金一,〇〇〇円/年会費一,〇〇〇円
特典

- ・明之會公演の入場料一割引(一会員三席まで)
- ・会報や演能、勉強会のお知らせなどお届けします

写真真「景清」梅若万三郎 撮影・前島吉裕

能を知る 愉しみ

能楽体験講座

能の話、謡と舞の基本的型の体験をします

『鶴亀』を謡ってみよう

日時 ■ 平成25年5月8日(水)、6月11日(火)、7月18日(水)、8月29日(木)、9月5日(金)、10月3日(土) 各正午〜1時30分
会場 ■ 本行寺(東京都荒川区西日暮里3-1-3 JR日暮里駅西口1分)
講師 ■ 加藤真悟
受講料 ■ 15,000円(6回)、教材費 1,500円
●ご予約・お問い合わせ ☎045-481-8704 加藤真悟